

鋭い光学系と高度な汎用性がミソです。

◀ 卓上赤道儀として

傾斜架台を取付けて赤道儀となります。緯度は北海道から沖縄までを包括しています。

写真三脚に取付けて赤道儀に ▶
山野での観測は、こんなスタイルが良いでしょう。電源は直流12V。乾電池、バッテリー、カーアダプター(別売)を利用して車からも取れます。

◀ 卓上経緯台として

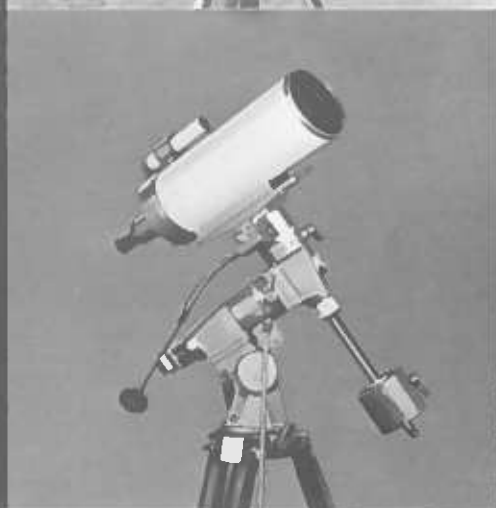
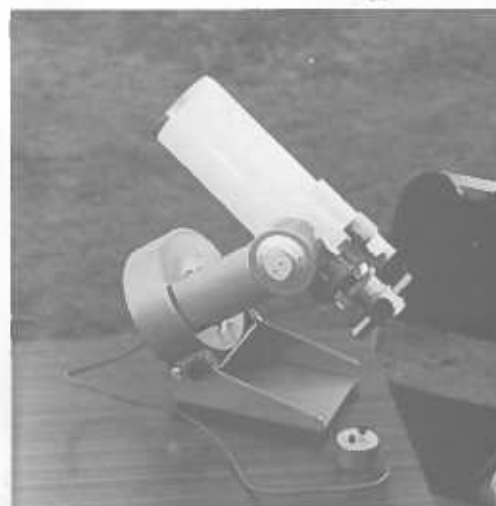
電動追尾装置を手動に切換え、水平に置くと経緯台に。直角プリズムが内蔵されていますので、上下が正立像となり、地上用望遠鏡となります。

写真三脚に取りつけた経緯台 ▶
水準器と磁石を台の上に置けば、トランシットに利用できます。

▶ 写真用超望遠レンズとして

鏡筒を取りはずすと1450mmの超望遠レンズになります。イメージサークルは約30mmあります。

普通の赤道儀への取付けも可能です ▶
五藤光学が新しく開発したシステム赤道儀「Mark-X」への取付けも可能です。詳しくはパンフレット「Mark-X 赤道儀のシステム」をご請求下さい。



☆本器を南半球にお持ちになる場合には、当社でモーターの回転方向を調整させて頂きます。

☆少しでもお求め易い価格を実現する為に、直販システムを採用しました。ご注文は直接当社へお願いします。

定価 ¥295,000 (送料 2,500-)

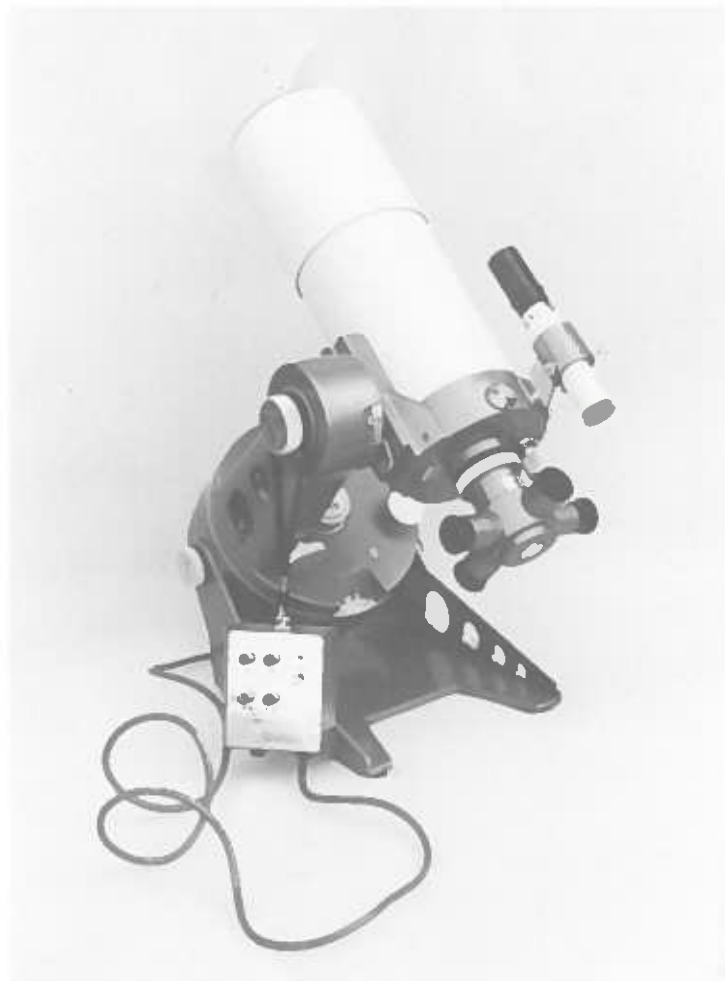
鏡筒のみ (アイピース込) ¥195,000-(送料 1,500-)



株式会社 五藤光学研究所

(183) 東京都府中市矢崎町4-16 TEL 0423-62-5311

GOTO 10cmマクストーフ反射赤道儀



口径10cmの望遠鏡がこんなにコンパクトに!

今まで天体望遠鏡と言えば、大きくかさばるといのが常識でした。ところがこのマクストーフ反射赤道儀はレンズと反射鏡の組合わせで、鏡筒の長さを従来のなんと1/4に縮める事に成功しました。鏡筒全長45cm、全重量6kg。どこへでも自由に持ち運べる大きさです。

しかも、反射鏡の良さである色収差のない事、屈折式の良さである筒内気流のない安定な映像が得られる事など、両方の長所を兼ねそなえています。マクストーフ反射赤道儀は、新しい時代の万能望遠鏡です。

仕様

光学系：改良マクストーフ・カセグレン方式

E.D. = 100mm (補正レンズ有効径)

F.L. = 1450mm F: 14.5

合焦範囲：最短距離 18m から無限遠まで

マウント：変形フォーク型赤道儀、経緯台兼用

追尾装置：水晶発振式パルスモーター内蔵、入力電源

D.C. 12V、リモートコントロール

目盛環：1目盛10分(赤経) 2度(赤緯)

ファインダー：6×18mm 実視界 6°

接眼鏡：Or-9mm (161X)、MH-12.5mm (116X)、

MH-25mm (58X)、四頭レボルバー式

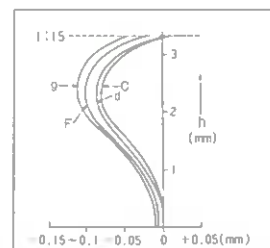
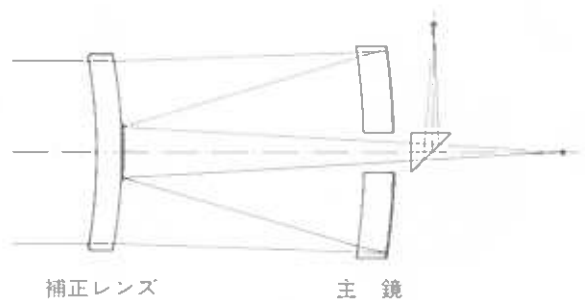
付属品：フード、カメラアタッチメント、キャリングケース

マクストーフ光学系とは

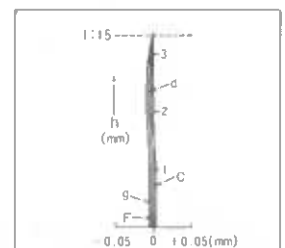
球面の反射鏡は、よく知られている様に入射高 h の2乗に逆比例した球面収差をもっています。球面鏡の前方にメニスカス凹レンズを置く事によってこれを補正する事ができ、「マクストーフ」とは、これを考案した D.D. Maksutov 博士の名前からきています。

当社ではこれを更にカセグレン型とし、ご覧の様にコンパクトな望遠鏡とする事に成功しました。この様な形態の望遠鏡は「クェスター」とか「ダイナマックス」などの商品名で、10年程前より米国で流行しています。

ところが、マクストーフ・カセグレン型の標準設計では、どうしても球面収差が焦点距離の1/1000程度は残るのが常識とされていました。当社はこの型式を更に追求し、球面主鏡を裏面鏡として収差補正に利用したり、幾度となく光線追跡、収差計算を行なって改良を重ねた結果、右図の様に球面収差を現わす線の湾曲を、ほとんどゼロに近づける事に成功しました。もちろん、コマ、非点、歪曲、像面湾曲などの諸収差も良く取り除かれています。



外国文献による標準設計値
軸上色収差は良好に補正されているが、球面収差のふくらみが焦点距離の1/1000の値に達するほど大きく残存している。



五藤光学のマクストーフ
色収差はもちろん、球面収差の■を示す線の湾曲が、ほとんどゼロに補正されている。